

神奈川県下および県立こども医療センター における長期入院患者と慢性肺障害

(分担研究：慢性肺障害の管理と予防に関する研究)

研究協力者 後 藤 彰 子

対象、方法：神奈川県新生児救急システムの受け入れ病院である県内34施設に長期入院に關してのアンケート調査を施行した。調査内容は1986年1月から12月迄に生後1週間以内に入院し引き続き3カ月以上入院した症例の実数とその理由についてである。こども医療センターNICU入院児については1986年1月から1988年12月の期間について同様の調査をした。

結果：アンケートの回答は34施設から100%回収した。(表1)1986年1月から12月迄の期間に神奈川県新生児救急システム協力病院に3カ月以上入院した新生児は127名、うち6カ月以上は14名(10%)であった。慢性肺障害の長期入院にシめる割合は3カ月以上は33名(26%)、6カ月以上は6名(42.9%)であった。3カ月以上の慢性肺障害33名の平均体重は988gであり、6カ月以上の6名の平均体重は1227.6gであった。慢性肺障害の死亡率は3カ月が6%、6カ月が16.7%であった。

(表2)1986年1月から1988年12月迄の3年間にこども医療センターに3カ月以上入院した新生児は56名、うち6カ月以上11名(20.8%)であった。慢性肺障害の長期入院にシめる割合は3カ月以上は26名(46%)、6カ月以上は4名(50%)であった。26名の平均体重は1018g、4名の平均体重は1258gであった。慢性肺障害の死亡率は3カ月が3.8%、6カ月が33%であった。 神奈川県

県下に慢性肺障害で6カ月以上入院した6例の予後は正常1名、不明1名のほかはなんらかの障害を残した。こども医療センターの4例は全例基礎疾患(21トリソミー2、Prader-Willi 1、水頭症)を持つ。予後は全例不良である。

まとめ：6カ月以上入院の慢性肺障害例は未熟児に基礎疾患を伴うと頻度が高く、予後も不良である。

表1 長期入院児と慢性障害
(神奈川県34施設)

入院期間	例数	1986年
3カ月以上	127	(11)
慢性肺障害	33	(2)
		26%
6カ月以上	14	(4)
慢性肺障害	6	(1)
		43%

表2 長期入院児と慢性肺障害
(神奈川県立こども医療センター)

入院期間	例数		
	1986	1987	1988
3カ月以上	25(2)	14(1)	17(2)
慢性肺障害	8(0)	7(1)	11(0)
	32%	50%	64%
6カ月以上	2(1)	3(1)	3(2)
慢性肺障害	1(0)	2(1)	1(0)
	50%	66%	33%

()は死亡数

 **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

まとめ:6 ヲ月以上入院の慢性肺障害例は未熟児に基礎疾患を伴うと頻度が高く、予後も不良である。